

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 18 号

2012 (平成24) 年8月25日 (土)

ひと べんきょう 人はなぜ勉強するのでしょうか。

=勉強するならこうし(孔子)よう! =

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

夏休みは終わりました。「いじめ」について、家族での話し合いの機会をもつことができましたか。

また、夏のオリンピックも終わりました。日本人の活躍に何度、涙したことか。心からねぎらいの拍手を送りたいと思います。

ところで、塾生のみんなは、なぜ勉強すると思いますか。

単に成績をあげるために勉強するのでしょうか。いえ、そうではない筈です。

勉強は、豊かな人間性を育み、自分を高めるためにするのでなければ意味がありません。

孔子は論語、泰伯第八篇・第十七章で「学は及ばざるが如くするも、猶之を失わんことを恐る。」と述べています。つまり、「勉強(学問)する時、自分はまだ十分でないという気持ちをいつも持ち続けなさい。

その上なお、学んだことは失わないように心掛けなさい。」という意味です。

成績をあげたい。良い大学に入りたい。そして、一流企業に入って裕福な生活をしたい。有名になりたい。等々 思って勉強(学問)するのは、本来の目的から逸脱(本筋からそれること)しています。

上の孔子の言葉にあるように、いくつになっても勉強し続けることが、人を成長させるのです。

成績をあげたい、良い大学に入りたい、有名になりたい、という目的だけでは、その目的が達成された時に、その人の成長は止まってしまおうでしょう。

さらに孔子は論語、学而第一篇・第六章で「弟子、入りては則ち孝、出でては則ち弟、謹みて信、汎く衆を愛して仁に親しみ、行ないて余力あれば、則ち以て文を学べ。」とも述べています。つまり、「若い人

は、家では親孝行に励み、外では年上の人を敬う。人との信頼関係を大事にし、周りの人への愛情や思いやりも忘れない。これらを実践した上で余裕があって初めて勉強する資格が得られる。」という意味です。

孔子が抱いていた理想の勉強(学問)のイメージをわかりやすく示しています。また、人間関係(人付き合い)に関して学べる章句だと思えます。勉強(学問)は、した方が良いが、きちんとやるべきことをやった上で

行わなければならないことを孔子は説いているのです。要約すると、①親孝行をする ②目上の人を敬う ③信頼関係を大切にする ④思いやりを忘れない、これら四つの要素が備わって初めて勉強する資格が得ら

れるということなのです。いくら勉強ができて、社会で生きている以上、これら四つのできなれば何もならない。人間の基本は勉強(学問)ではないということなのです。うわべだけの勉強(学問)、うわべ

だけの知識は、誰にも何も伝わりません。自分の心を成長させ、人間的に厚みのあるバランスのとれた人間になって初めて勉強(学問)は活かされるのです。

人は人によって成長するものであり、勉強(学問)と人間関係は決して別物ではない、ということをお頭にに入れて、日々の生活を大切に過ごし、人との関わりをおろそかにしないようにしたいものです。

【孔子先生の教えのまとめ】

孔子先生は、「どんなに勉強ができて、人として成長できていなければ、その知識は無意味である。人とのつながりを大切にすることが勉強(学問)にとって必要不可欠なのである。」と述べているのです。

※ 9月の塾生紹介は、藤原梨乃さんと中島ちひろさんを紹介します。